

神奈川県立中央農業高等学校

農業クラブ本部

高校生ボランティア・アワード2020

「地域を連携した農福連携活動」

私たちは農業高校生が所属する農業クラブ本部の役員として既存の学校行事やプロジェクト活動を行っています。

そして、校内活動以外に地域貢献活動の目標に学校と隣接して新しく設置された特別支援学校と連携を開始しました。私たちは生徒が所属する学科の特色を活かし、昨年度より小・中・高等部のそれぞれの子供たちへふれあい動物園・野菜の作物栽培・田植えや稲刈りなどの水稻栽培、防災訓練DIG研修・交流会などの活動を実践しています。私たちは日頃、授業で学ぶ「食の大切さやいのちの尊さ」が特別支援学校に通う子供たちとの交流を通して、新たな福祉活動につながるのではないかと考えました。農業と福祉が連携する私たちの活動は「農福連携活動」のモデルとして県内で注目を集めています。

私たちが所属する農業クラブ本部は校内では、研究発表会の企画・運営、県内農業高校生が一堂に集まる役員会の運営、校外では、市内で行われる交通安全キャンペーン、県主催のタウンミーティングで県知事との意見交換会へ参加、農業高校生らしく近隣の農業まつりでの生産物販売会など様々なイベントに参加しています。

さらに、私たちが取組む福祉活動を知ったNPO法人フードバンク横浜（神奈川県横浜市）と連携をスタート。フードバンク横浜主催の「ひとり親支援活動」として、不要となった日用品や防災保存食を支援に必要な方々へ配布する活動に毎月1回、農業クラブ本部役員の生徒がボランティアとして参加させていただいています。その際には全校生徒や先生をはじめ、顧問の先生に協力していただき、市内の他の高校にも呼びかけ、寄贈品を募り、数多くの物品を寄付することもできました。

このようにボランティア活動を通して、私たちの活動で微力ながらひとり親家庭のみなさんの生活が豊かになっていると感じました。しかし、活動では一定数以上の配布ができず、「うちの子はこれのお菓子好きなのよねえ」と言われ、寄贈品を渡すことができなかったことが今でも印象に残っています。そのため、フードバンク活動の周知や始まったばかりの私たちの活動を継続することが大切だと感じています。

今後ともフードバンク活動を校内での実施、地元地域と連携した活動を目標に取り組みます。私たちは「救われる側から救う側へ」を合言葉に活動を継続します。



「農業分野の可能性」

私たちが学ぶ農業学校では普通高校では決して学べない授業や実習など専門高校ならではの経験をしています。高校生が畑に種をまき、野菜の栽培。毎日、放課後には畜舎へ行き、乳牛の搾乳や子牛の管理作業、生徒自身でレシピを考え、製菓の製造など農業分野はとても幅広く、毎日充実した学校生活を過ごしています。そんな中、数年前、学校の旧敷地を活用し、県内でも大規模な特別支援学校が開校しました。私たちは授業や日々、実習で学ぶ農業について支援学校の子どもたちへ伝えることが私たちの果たす役割の1つではないかと考えるようになりました。コミュニケーションが上手にできなくても野菜を触って、表情が笑顔になる小学生、初めて触る子牛の温かさに驚く高校生。私たちは農業分野が栽培や飼育管理以外にも障がいを持った子どもたちへのツールにお1つとして可能性を感じました。農業クラブ本部では各学科の生徒が所属しているため、各科が取組む授業や実習を共有することで農業高校しかできない取組みを実践することができます。

さらに支援学校との連携で福祉にも興味を持ち、NPO法人との連携も始まりました。作物栽培で知った「食の大切さ」は食品ロス問題につながります。不要となった食品を必要とする人へ寄付するフードバンク活動は農業高校で学ぶからこそ携わっていきべき活動だと感じています。私たち農業クラブ本部が率先して目的や活動を理解し、校内外で周知させていきたいと考えています。

「農業高校生ができること」

私達は、所属する学科の特色を活かし、交流内容を本部役員による定例会で提案・計画をしています。知られているように知らない農業高校。隣接する立地にありながら支援学校を担当する先生も農業高校を知る先生は多くありません。そこで農業高校を知ってもらうため、栽培する作物や飼育する家畜のイラストや校内マップの作成など、まずは農業高校を知ってもらうことが一番必要だと考えました。そして、交流内容を提案・準備を行うと同時に障がいに対する正しい知識を知るため、私たち自身が勉強会へ参加することで子どもたちへの接し方や正しい理解を深めました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響で活動が制限・縮小されるなど例年と同じ活動をすることができません。しかし、私たちの活動を止めるわけにはいきません！

農業クラブ本部の役員1人1人が旗振り役となり、支援学校の子どもたちと距離を縮める「架け橋」になりたいと考えています。さらにより多くの本校生徒が交流を図り、両校の生徒が“農業”というツールを最大限利用して活動を発展させていきます。

（特別支援学校との取組み・令和元年～）

小学部 子牛やヒツジのふれあい動物園・水稻栽培(田植え・稲刈り)・作物栽培(エダマメ)

中等部 さつまいも掘り・子牛のふれあい動物園・校内マップの作成

高等部 製菓交流(パン・ケーキ作り)・いのちの授業(ヒツジの散歩)・コサージュ制作

その他 生産物販売会・防災訓練(防災図上訓練DIG)・交流会(家畜のおはなし)

（NPO法人フードバンク横浜との取組み・令和元年～）

ひとり親支援活動 家庭や企業で不要となった食品や日用品を生活困窮者やひとり親の方へ配布

フードドライブ 県内のデパート内で活動の呼びかけ・寄贈品の受付

生産物の提供 研究の一環で栽培する野菜(ナス・ピーマン)やお米(無農薬米)を提供

（農業高校と支援学校の生徒で商品開発）

共同で栽培したエダマメ + 学校で飼育する乳牛の生乳

⇒ 本校卒業生(酪農家)のご協力商品開発！販売決定！！

（神奈川県知事へのプレゼンテーション）

県主催のタウンミーティングで活動紹介



「農業が未来を変える！！」

私たちには2つの大きな夢があります。

誰もがその人らしく暮らすことができる地域社会にすること、障がいのある方の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別を排除することです。ですが、これは世界を変えるための目標のほんの一部です。私たちだけでは世界を変えることは難しいですが、少しでも自分らしく生きていける人が増えることを願い、1人1人が向き合い、協力して活動しています。「障がいを持った方にどう接すればいいかわからない」といった声もありますが、夢の実現のために向き合い、救われる側から救う側になるように努力しています。

現在、「交流に参加したいけど障がいを持った方にどう接すればいいかわからない」などの意見から勉強会の実施、農業と福祉を連携させた農福連携の活動で、「食の大切さ」や「いのちの尊さ」を伝えるために、支援学校と交流をもち、家畜とのふれあい体験や交流授業の継続、防災訓練、さつまいも掘り体験、稲刈り・かかしづくりなど支援学校・高等部・中等部・小学部の子どもたちに合わせた継続的な活動を目指しています。今後も夢の実現に向けて、現在の活動を継続していきたいと考えています。この活動により、すべての人が平等に、自分らしく生きられるようにし、夢を実現させたいと思います。



活動団体プロフィール

神奈川県立中央農業高等学校 農業クラブ本部

- ・1学年 4名
- ・2学年 9名
- ・3学年 10名 計23名

園芸科学科・畜産科学科・農業総合科の生徒が学年・学科に関係なく所属しています。